

～使命の実現～

2016年5月10日発行 5月号 No. 255

◇「広報委員会よりご挨拶」

副本部長・広報委員長 山田 正信
 〔足立支部 (株) 森田商運〕



広報委員長の山田です。いつもくひびき>をご覧いただきありがとうございます。早いものでロジ研広報委員長を仰せつかってから3期6年となり、ロジ研発足当時から3代目の広報委員長として、くひびき>の発行人としても皆様には大変お世話になりました。また、強引なる記事の執筆依頼にも、ご協力を頂いた方にはまことにありがとうございます。今回の役員改選に伴い、広報委員長の座を後任の方にお譲りするべくご挨拶となりました。

思い起こせば一般的にリベラル思想になりがちな発行物の流れに逆らい、保守的な意味合いを中庸?な観点からくひびき>の編集を執り行ったつもりではありましたが、毎回、記事変更やら全○協さんがらみで、その内容が過激では?との事でホームページのくひびき>アップを暫く諦めた発行月もあり、今となっては懐かしい思い出となっております。(まあ、事務方担当からすれば微妙な立ち位置ですからねえ・・・笑)

今後は後任の広報委員長に、より自由な発想で活動をして頂き、読者の皆さまの期待に答えられるべく過激に対応できるように申し送りはさせていただきます。尚、今後は匿名投稿者として寄稿活動はする予定ではありますが、何せ採用していただけるかどうかは次期委員長次第ですので・・・おい、採用してよね(笑)

何はともあれ今後ともロジ研くひびき>をよろしくお願ひするとともに広報活動にも変わらぬご理解を頂ければと思います。長い間有難うございました。

◇「伊勢志摩サミット関連交通総量抑制」

(東ト協教育研修部より)

伊勢志摩サミット開催に伴い、各会場を中心に高速道路や一般道路で交通規制や検問等が実施されるほか、都内においても警備強化のため、交通混雑が予想されます。

営業車は、国土交通省からも混雑緩和への協力要請を受けております。運行調整等ご対応いただくとともに、集荷配送箇所及び走行ルートの関係で避けられない場合は、警視庁及び各県警察のホームページを参照されるか、直接各県警察本部へお問い合わせの上ご調整をお願いします。

<近日開催される主な国際会議と規制される主な地域>
 5/14~15 教育大臣会合・岡山県倉敷市、5/15~16 環境大臣会合・富山県富山市、5/15~17 科学技術大臣会合・茨城県つくば市、5/20~21 財務大臣・中央銀行総裁会議・宮城県仙台市、5/26~27 首脳会議(サミット)・三重県志摩市

警視庁交通規制課災害交通対策第一係
 電話：03-3581-4321 (警視庁代表)

◇スケジュール《○ロジ研行事予定》

- 5/16(月) 15:30~ ロジ研物流政策勉強会(東ト総合会館 6中)
- 17:00~ 正副幹事合同会議(東ト総合会館 6中)
- 5/30(月) 16:00~ 三組織連絡会(東ト総合会館 6中)
- 6/ 6(月) 17:00~ 青年部総会(東ト総合会館 7階)
- 6/13(月) 16:00~ ロジ研総会(東ト総合会館 7階)
- 6/14(火) 15:25~ 女性部総会(東ト総合会館 7階)

◇「第1回ロジ研物流政策勉強会」

アドバイザー 関根 清孝
 〔グリーンエコポット(株)〕

温故知新一旬な話題から、貨物自動車運送事業法の歴史、背景と考え方の変遷を「生き証人」から学ぶ会をシリーズ化

4月18日、第1回ロジ研物流政策勉強会が開催された。目的は、ロジ研がシンクタンクとして機能する為の勉強会だ。

貨物自動車運送事業法は、どのような時代を背景に、誰がどのようにして作られたのか。歴史を学ぶ事は、今物流業界が抱えている課題を知る事である。技術上の基準を定める省令は? 時代とともに、官・政・業・荷主・社会ニーズがどのように変化して現在に至ったのか。講師は、輪駆出版社長、猪狩和夫氏。貨物自動車運送事業法と技術の基準を定める法令を作った「ある人物」から猪狩氏は直接指導を受け、法律から車両技術に精通。国産トラックの生産の為に、技術者向け専門誌を自ら編集し、自動車メーカーが新型車を市場投入する際の評価試験ドライバー等を務めた人物。また、日本の高度成長を支えた自動車メーカートップからアドバイス等を直接求められ、現在は、運行管理者向け専門誌を発行。重大事故が起きると今でも一部のジャーナリストから相談を受けている。

今回は、旬な話題として、ETC2.0に関する座学。ETCという言葉が生まれてから、現在では車載器の販売台数が7000万台を越え、利用目的は、ほぼ高速道路料金の課金。ETC2.0の技術的バックボーンは、警察庁等各省庁が推進するDSRC(無線通信技術)とETCを国土交通省が合わせたものである。ITSとして国内実用化に成功しているのは、VICSとETCの2つである。そのETCにDSRCを併せ持ったシステムとして、ETC2.0の実現性を可能にしたものだ。

「今後の課題として残されるのは、図1に示されるように、サービス提供者での今後の課題(スマホ、カーナビ情報との比較)等、不安を感じる」と猪狩氏はコメントをされた。ロジ研参加メンバーからは、大口・多頻度割引制度の継続の有無の関心が高かった。また、ETC2.0では、車輛がいつ、どこで、どの道を走行したか特定出来るとの意見もあった。

物流といっても、積載する荷物によって千差万別、一口には言えない難しさがある。それぞれの輸送荷物のエキスパートであり、現場を知るロジ研メンバーとディスカッションをすることにより、新たな物流政策の見識が出る事が楽しみだ。

図1. ETC2.0の可能性

